

スポーツ川越

発行 川越市体育協会



第68回 川越市民体育祭 卓球の部より

スポーツの輪を広げよう

川越市体育協会 副会長 牧野保代



新春を迎えるにあたり、皆様には、よいお正月をお過ごしになりましたこととお喜び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆様ご承知のように、五十六年ぶりのオリンピック・パラリンピック東京大会が決まり、ゴルフ競技が、市内の霞ヶ関カンツリー倶楽部で行われる予定です。

伝え聞くところによりますと、今回の東京オリンピック誘致活動は、きわめて厳しい局面が多々あったということですが、誘致合戦そのものは、スポーツではありませんが、そこには、スポーツにも通じる関係者の粘り強い努力と行動力、そして冷静な思考の積み重ねがあったことと思えます。

個人的には、一生のうちに二度も身近なところでオリンピックが見られるとは大変うれしく、思いもよらなかったことです。合言葉は「お・も・て・な・し」川越市に住む私たち一人ひとりが、どのようにこの「おもてな

しの輪」を態度で表すべきかを考えてまいります。

さて、川越市体育協会は、皆様のご支援ご尽力により、平成三十年に七十周年を迎えることとなります。七十周年記念事業は、これまでの形式にとらわれず、実のある事業にしたいと考えます。

これまでも、市民体育祭・生涯スポーツフェスティバル等で多くの皆様のご参加をいただいておりますが、七十周年に向けて、運動する人の輪をもっと広げたいと思います。イベントを大いに活用し、市民の皆さん一人ひとりが、それぞれの体力の範囲内で体を動かす市民スポーツを充実するため、各団体の会員の皆さんの一層の声をかけをお願いいたします。

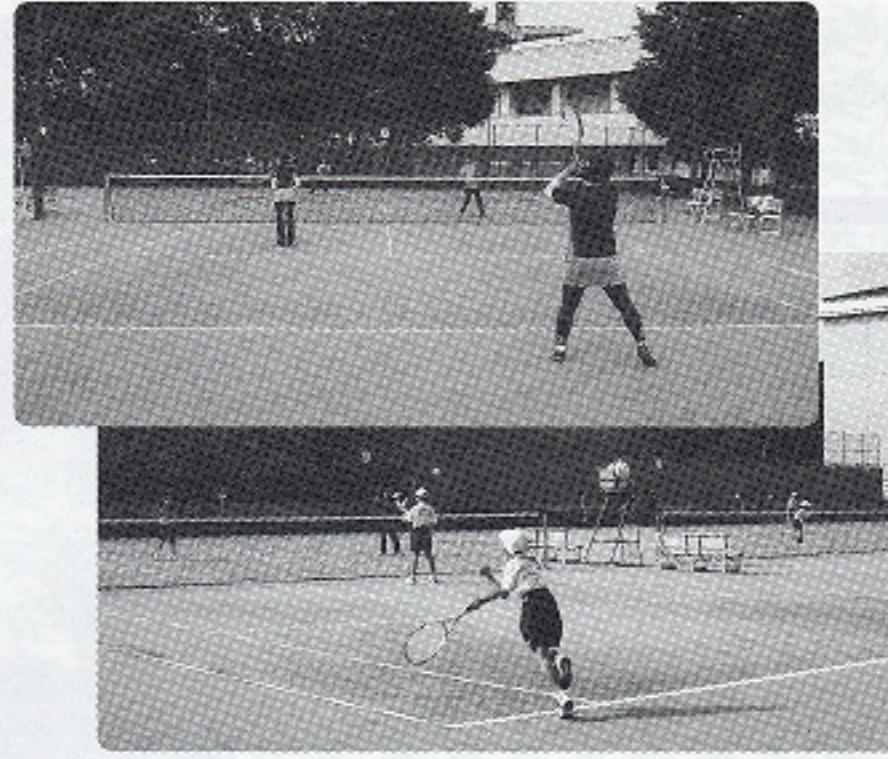
今年も川越市体育協会加盟団体の様々な熱戦が期待されています。これらの活動をさらに盛り上げる必要があります。そのためには、多くの建設的な意見が貴重であり、特に女性のパワーを発揮し、新しい風を吹かせ、女性がより活躍する環境をつくり出すことで、スポーツの輪がもっと広がっていくものと思えます。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

第 68 回 川越市民体育祭

ソフトテニス連盟

■ 日程：9月27日(日)～11月1日(日)
 ■ 会場：川越運動公園テニスコート
 ■ 参加者数：144名



一般からシニアまで年代別の大会に加え、レディースやジュニアの大会も開催しています。

プレーヤーの年齢や体力にあった楽しみ方ができるため、生涯スポーツとして最適です。

選手からの一言

「昨年より一つ多く勝てたのでうれしい、来年はもう一つ上を」
 「毎年、いろいろな技術を習得しゲームができるのが楽しい。もっと練習して早く上達したい(ジュニア選手)」

バスケットボール連盟

■ 日程：9月20日(日)～11月29日(日)
 ■ 会場：川越運動公園総合体育館
 ■ 参加者数：1850名



小学生から成人まで約2000人のプレーヤーが一つの競技に参加しました。バスケットボールは、ミニバスではコートやバスケットの高さ、そしてボールの大きさが特殊ですが、中学生以上では皆同じコート、バスケット、ボールを用い、同じルールでプレーします。これが競技を永く続けられる理由の一つです。ママさんチームの活躍はもちろんのこと、今年は40代の男性選手の活躍が目だった体育祭でした。

陸上競技協会

■ 日程：8月2日(日)
 ■ 会場：川越運動公園陸上競技場
 ■ 参加者数：992名



川越市民体育祭一般陸上競技の部 エントリーは一般A・B、ジュニアA(小学5・6年生)、ジュニアB(中学生)、ジュニアC(高校生)の5クラス。競技は、トラック6種目(100m・200m・400m・1500m・3000m・4×100mR) フィールド5種目(走幅跳・走高跳・砲丸投・やり投・円盤投)。
 小学生にとって陸連公認コースで100mや走幅跳を競技できる機会は少ないので、多くの小学生の参加がありました。
 一般の参加者はA・B併せて104名でした。陸上競技場でレースに出るには、それなりの訓練が必要であるため、出場者が少ないと感じています。

スキー連盟

■ 日程：平成27年2月28日(土)～3月22日(日)
 ■ 会場：群馬県丸沼高原スキー場
 長野県菅平高原スキー場
 ■ 参加者数：148名



川越市スキー連盟は、平成27年3月1日に第67回市民体育祭を群馬県丸沼高原スキー場で開催し、大回転競技及び回転競技を行いました。また、同年3月20日から22日には、市民体育祭のジュニアスキー大会を長野県菅平高原スキー場で開催、91名の児童生徒が参加しすばらしい大会となりました。今後多くの方が参加して、より良い大会となるよう努めていきます。

レクリエーション協会

ターゲット・バードゴルフ
 ■ 日程：10月10日(土)
 ■ 会場：川越市南部公共広場ほか
 ■ 参加者数：72名

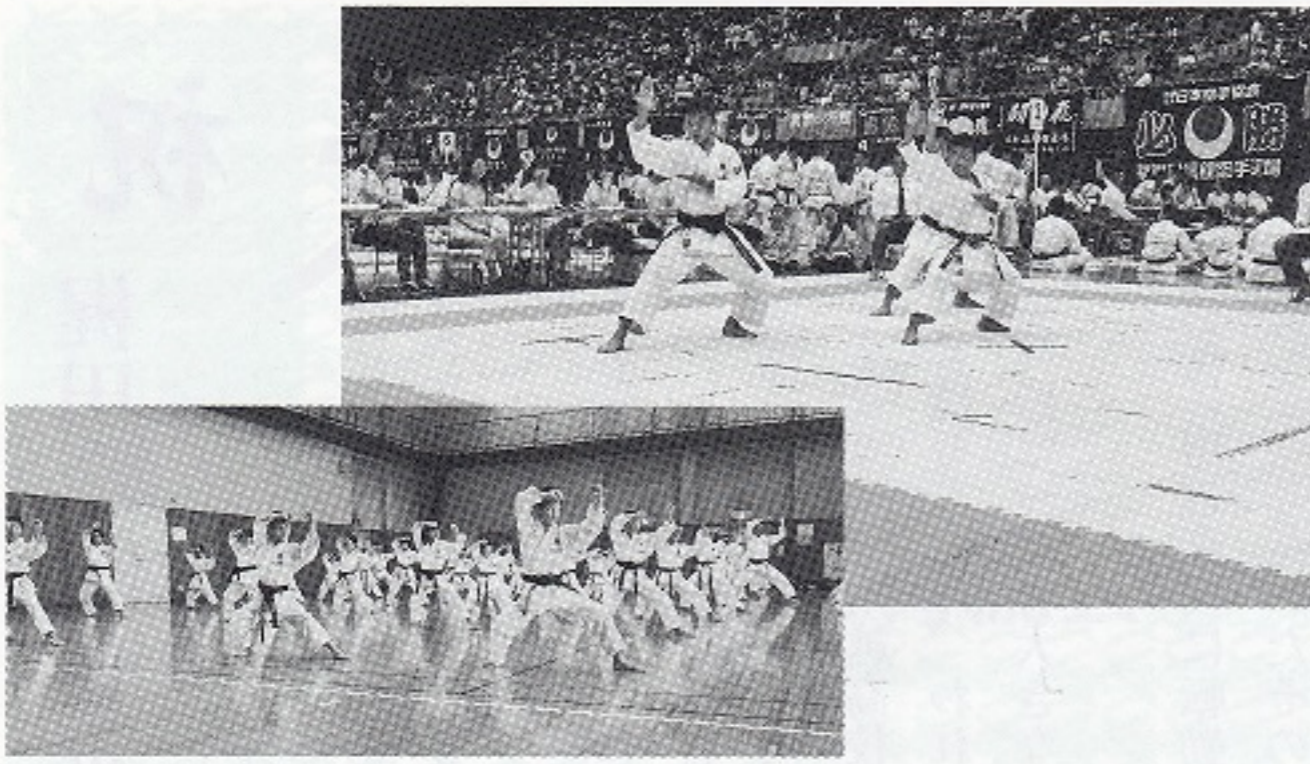


ゴルフをミニ化した生涯スポーツのターゲット・バードゴルフです。今年も72名の参加を得て、一打一打に一喜一憂しながらも、親睦と絆を豊かに楽しみ、喜びあいました。健康増進と生きがいを高めることを目的に、天候に恵まれた秋真っ只中の一日、熱戦が行われました。入賞した方も、またそうでない方も「とても楽しかった」「次回はもっと頑張りたい」とのコメントがありました。

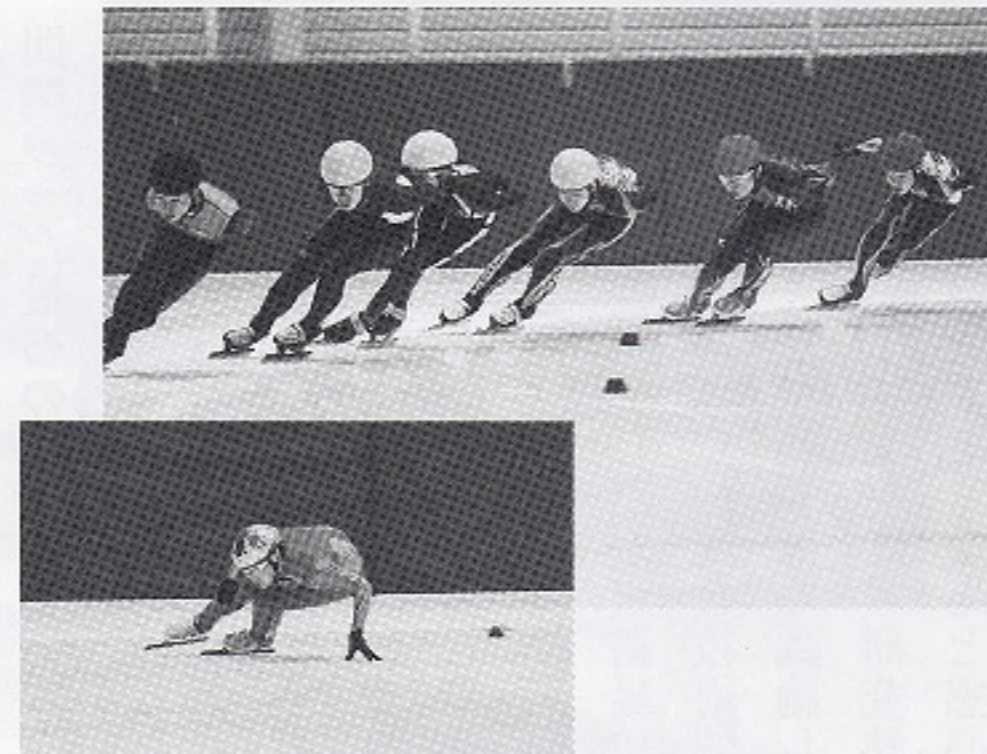
加盟団体紹介

空手道連盟

昭和32年に発足し、昭和42年に体育協会に加盟しました。各団体の組織の充実や技術の向上、また青少年の健全な育成に力を注いでおります。毎年、関東大会や全国大会でも好成績を挙げています。最近では親子での加入者も増えてきており、家族で空手に関わる人も増えてきています。2020年東京オリンピックでは正式種目候補になり、今後益々の発展が望まれます。



スケート連盟



川越市スケート連盟は、スケートの普及と選手の育成・指導に努めています。選手構成は、小学生から成人までの選手で構成されています。

小学生は、全日本ノービス選手権大会、中学生は、全国中学スケート大会、高校生・成年選手においては、全国高校スケート競技会・国体等の大会に選手を輩出しています。審判取得者においては、県内の大会だけでなく全国大会へも公認審判員として派遣しています。また、市民スケート教室をお手伝いして、普及にも力を入れています。

テニス協会

川越市テニス協会は、創立34年となり、企業・大学・民間テニスクラブ・テニスサークル等23団体が加盟、会員数は1300余名です。協会主催の大会は、春季大会・団体戦・ミックスフェスティバルと年三回開催しています。また、市民体育祭のテニス大会・スポーツフェスティバルでは、毎年ふれあいテニス教室の運営も行っています。指導者講習会・初心者テニス教室も年一回開催し、テニス普及活動にも取り組んでいます。

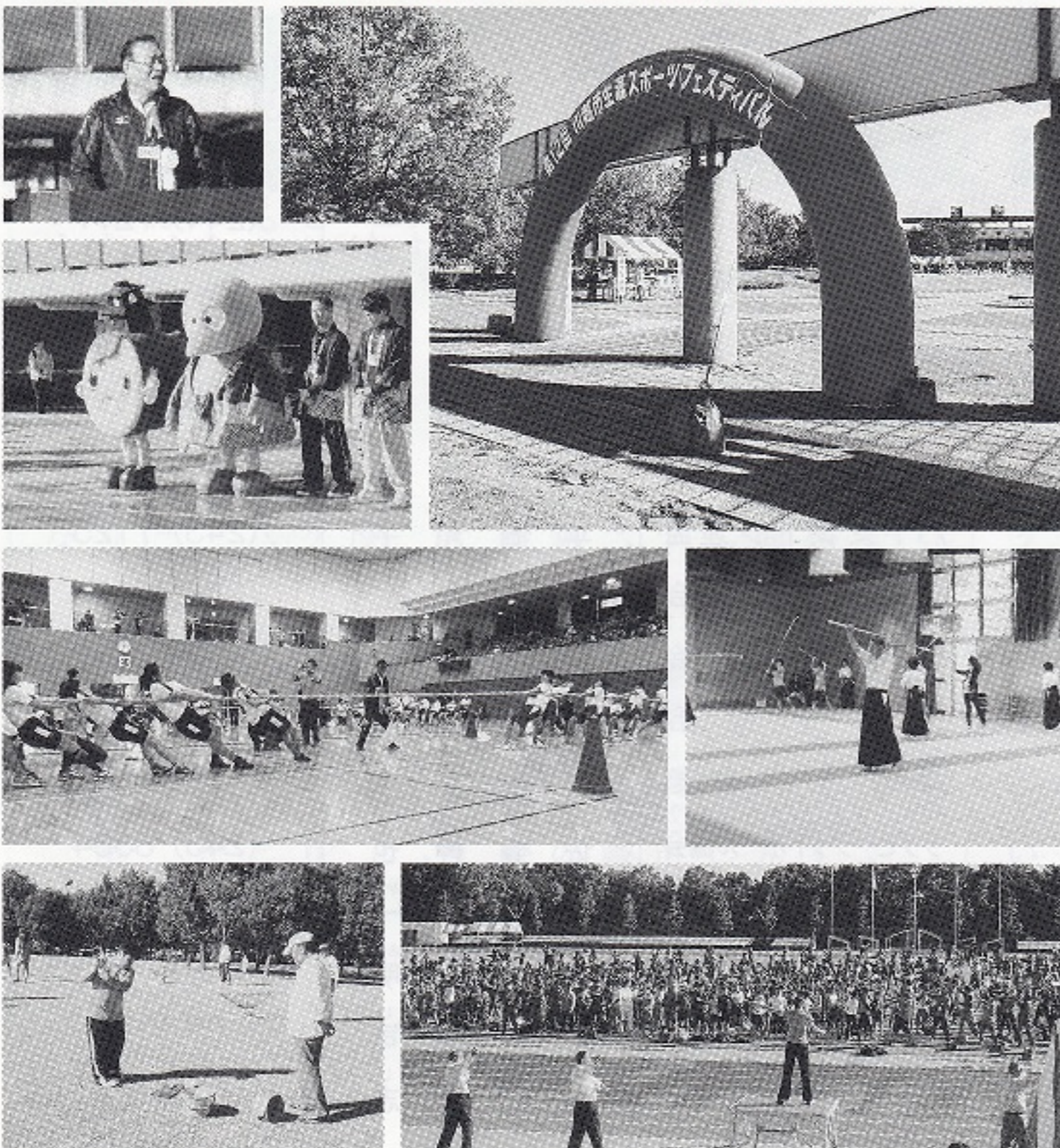


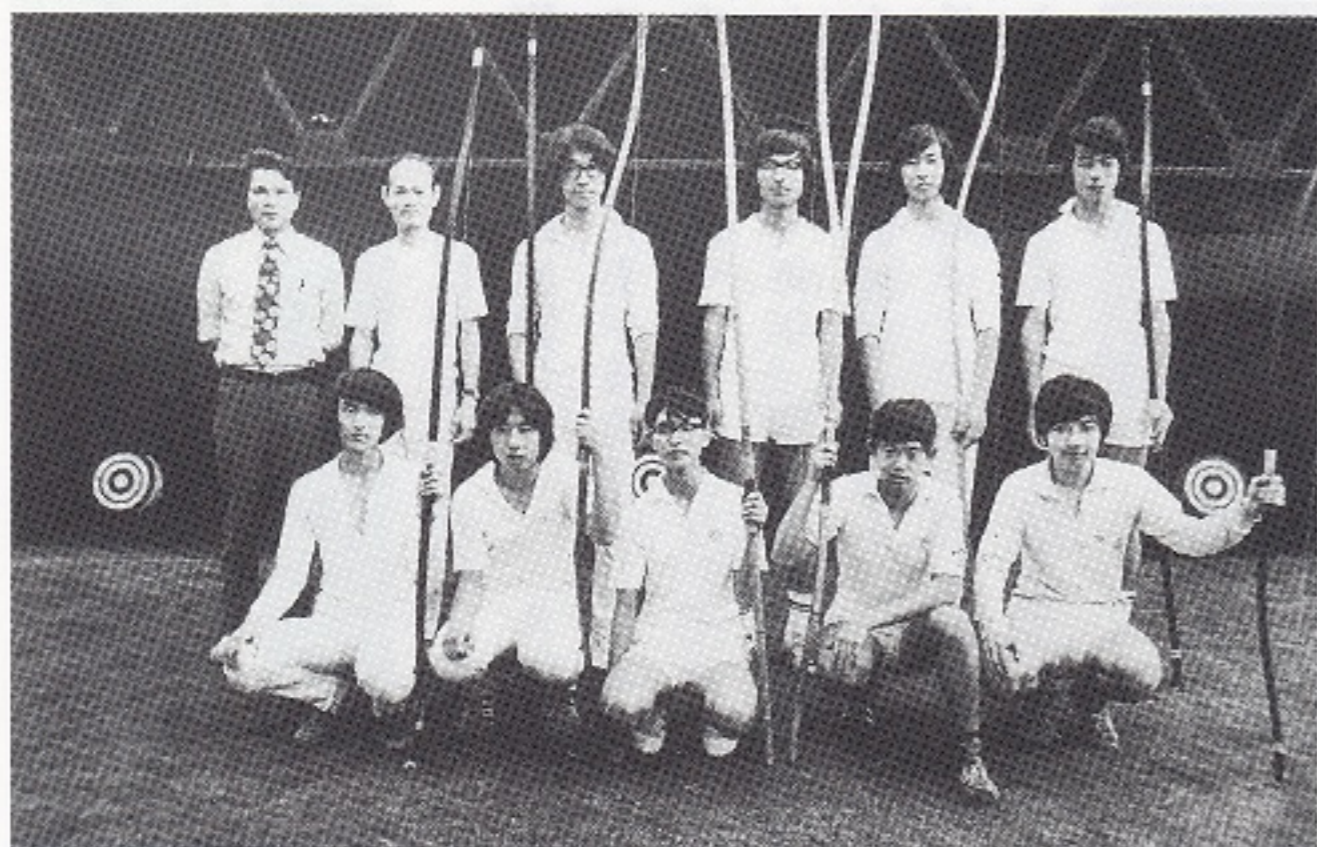
第12回 川越市生涯スポーツフェスティバル 生涯スポーツフェスタ2015

平成27年11月3日(火・祝)、川越運動公園を会場として「第12回川越市生涯スポーツフェスティバル(愛称:生涯スポーツフェスタ2015)」が、2722名の参加をいただき盛大に開催することができました。

子どもから大人まで、市民の誰もが気軽にスポーツを体験し、心身の健康増進と市民相互の交流を図ることが目的です。

ウォーキングコーナー(一般、親子・家族の部 計560名)、綱引きコーナー(小学生、中学生、一般の部 計86チーム 928名)、体力測定コーナー(計100名へ延べ参加者数310名)、ふれあいコーナー(22コーナー 1134名へ延べ参加者数7155名)の4つのコーナーに分かれ、多くの参加者来場のもと、無事に終了いたしました。





昭和 51 年当時：後列右から二番目が梶田君
後列左から二番目が内河名誉会長

特別の感慨があります。梶田君は、部長の新津君とともに特に練習熱心で、県大会などには常にレギュラーで出場していました。穏やかで控えめな性格でしたが、道場に座り込み、仲間と技術的なことを熱く議論している姿を見て、研究熱心な面があるなあと感心した覚えがあります。一番印象に残っているのは、入学当初はまだ多少あどけなさが残った小柄な少年という感じだった

たのが、3年間に身長が十数センチも伸びて、たくましい青年に成長したことです。表面的にはおおよそガリ勉タイプとはほど遠い、弓大好きな弓道少年という感じの生徒で、勉強もずば抜けてよくできる方ではなかったように思います。現川越高校教諭の新津君とともに埼玉大学に進学してからも再び弓道部に入り、併せて7年間にわたって弓道三昧の学生生活を送ったことになりました。この度のノーベル賞受賞が何より凄くと思うのは、そのようなかつての「弓道人」が最高の快挙を成し遂げたことにあります。

連盟・協会 問い合わせ先一覧

団体名	連絡責任者
野球連盟	和田昌男
卓球連盟	牧野保代
ソフトテニス連盟	根岸とく好
バレーボール連盟	あまた沼忠一
バスケットボール連盟	おず鈴木俊夫
サッカー協会	さか坂代暁生
柔道連盟	おい及川まこと誠
剣道連盟	ない内藤つね常
弓道連盟	たか高倉まこと真
空手道連盟	たか高橋もとき基
陸上競技協会	いわ岩瀬よし彦
水泳協会	さ佐藤あきら明
スキー連盟	みや宮もとかず彦
クレール射撃協会	お小原まさ征
ライフル射撃協会	にし西が川ひとし仁
スケート連盟	おお大貫あきら了

団体名	連絡責任者
体操連盟	おおつか賢一
小学校体育連盟	み三けん謙介
中学校体育連盟	お小笠原よし嘉和
高等学校体育連盟	たけ竹うちゆう樹
レクリエーション協会	お岡べ部こう幸一
バドミントン連盟	ひら平おかかず和子
少林寺拳法協会	よし吉の野こう広二
ソフトボール協会	あらい井よし良昭
テニス協会	よし新吉岡たか隆志
なぎなた連盟	と戸田ふみ文子
ラグビーフットボール協会	さ佐藤しん紳也
ゲートボール連合会	さ佐野よし禎かず一
グラウンドゴルフ協会	もと本おり居まさ政明
ダンススポーツ連盟	なか中の野ひろ廣司
ゴルフ協会	かん神だ田さと志

祝
梶田隆章氏(川越高校弓道部出身)
ノーベル物理学賞の受賞に寄せて
弓道連盟名誉会長
内河輝臣

川越市内には現在、弓道部のある高校が8校あり、県の大会でも大いに活躍しています。そんな中、かつて川越高校の弓道部で夢中になつて弓を引いていた梶田隆章君がノーベル物理学賞受賞という快挙を成し遂げたことは、川越高校弓道部にとってはもちろん、われわれ弓道関係者にとっても大きな喜びです。

私が昭和49年に川越高校に転動して弓道部顧問を命じられたその年に梶田君が入学し、弓道部に入ってきた。昭和50年の川越武道館落成を機に、その翌年、川越市弓道連盟は弓道部の技術向上と親善を目的として、第一回市内高校弓道王座決定戦を開催し、梶田君は3年生で参加しました。

現川越高校教諭の新津君とともに埼玉大学に進学してからも再び弓道部に入り、併せて7年間にわたって弓道三昧の学生生活を送ったことになりました。この度のノーベル賞受賞が何より凄くと思うのは、そのようなかつての「弓道人」が最高の快挙を成し遂げたことにあります。